

---

---

# 日本図書館文化史研究会

# ニューズレター

第 105 号 2008 年 8 月 10 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

---

## ■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2008 年度研究集会のご案内	2
日本図書館文化史研究会 2007 年度活動報告 (2007.4—2008.3)	8
日本図書館文化史研究会 2007 会計年度決算報告 (2007.4-2008.3)	9
日本図書館文化史研究会創立 25 周年事業決算創立 25 周年記念事業・寄附金 決算	10
日本図書館文化史研究会 2008 年度予算 (案)	11
日本図書館文化史研究会規約 (案)	12
『図書館文化史研究』25 号発行のお知らせ	14
日本図書館文化史研究会 2008 年度第 3 回例会のご案内	15
日本図書館文化史研究会 2008 年度第 1 回研究例会報告	16
運営委員会通信	17
事務局だより	18
会費納入のお願い	
会員動向	
『図書館文化史研究』第 26 号原稿募集のお知らせ	

日本図書館文化史研究会

2008 年度研究集会・総会のご案内

2008 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、下記のように開催します。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程： 2008 年 9 月 14 日（日）・15 日（月・祝）
- 会 場： 工学院大学・新宿キャンパス 28 階第 1 会議室  
新宿区西新宿 1-24-2  
<http://www.kogakuin.ac.jp/campus/shinjuku/shosai.html>
- 交 通： JR 各線・小田急線・京王線・地下鉄各線「新宿駅」下車、  
徒歩 5 分、都営地下鉄大江戸線「都庁前駅」下車、徒歩 3 分  
<http://www.kogakuin.ac.jp/map/shinjuku/index.html>
- 参加費： 3,000 円 懇親会参加費：5,500 円
- 申込方法： 次の事項を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込み下さい。  
氏名（ふりがな）、所属、懇親会参加の有無
- 申込先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908 作新学院大学  
司書・司書教諭課程 小黒 浩司  
電子メール：[oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)  
ファックス：028(670)3671
- 申込締切： 2008 年 8 月 31 日（必着）

○ プログラム

**第 1 日**：9 月 14 日（日）

13:00- 受付開始

13:15-14:00 会員総会

※ 審議未了の案件がある場合、2 日目の個人発表終了後に引き続き審議します。

14:00-15:30 特別講演①

竹内 愼 「21 世紀の図書館協力」と「本のみち」  
—IFLA ソウル大会に因んで—

15:45-17:00 特別講演②

阪田 蓉子 本間一夫と日本点字図書館

17:30-19:30 懇親会（参加費：5,500 円）

イタリア料理 アクイラ ニグラ

新宿区西新宿 2-3-1 新宿モノリス 1F 03(3342)0007

[http://www.shinjuku-monolith.co.jp/map/map\\_b.html](http://www.shinjuku-monolith.co.jp/map/map_b.html)

**第2日**: 9月15日(月・祝)

- 10:00-11:00 個人発表① 琉米文化会館の二重構造  
古波蔵 剛
- 11:00-12:00 個人発表② 青年図書館員聯盟の図書館革新運動と『ファシスト的公共性』: 楠田五郎太の「動く図書館」を中心に  
米井勝一郎(愛知県立大学学術情報センター)
- (12:00-13:00 昼食休憩)
- 10:00-11:00 個人発表③ スロベニア共和国「国立大学図書館」の建築について-ヨージェ・プレチュニックの遺したもの-  
岡野裕行(相模女子大学非常勤)
- 14:00-15:00 個人発表④ ブリティッシュ・ライブラリーの起源: 国立中央図書館の役割とその意義  
藤野 寛之(聖トマス大学)
- 15:00-17:00 運営委員会

- ※ 昼食は、会場周辺のレストランなどをご利用ください。  
※ 宿泊は、各自でご手配ください。

#### 会員総会(第1日 13:15-14:00)

会員総会では、次のような案件の審議を予定しています。なお、その他検討すべき議案などがあれば、事務局までご連絡ください。

#### 議事内容

1. 日本図書館文化史研究会 2007年度活動報告(2007.4-2008.3)  
2007年度の活動内容をご報告します。8ページの資料をご参照ください。
2. 日本図書館文化史研究会 2007会計年度決算報告(2007.4-2008.3)  
2007会計年度の決算をご報告します。9ページの資料をご参照ください。
3. 創立25周年記念事業決算と剰余金の使途について  
創立25周年記念事業の決算をご報告し、その剰余金の使途についてご審議をお願いします。10ページの資料をご参照ください。
4. 日本図書館文化史研究会 2008年度予算(案)  
2008年度の予算、ならびに活動計画を提案します。11ページの資料をご参照ください。
5. 「日本図書館文化史研究会規約」の改正について  
「日本図書館文化史研究会規約」の一部改正を提案します。12~14ページの改正案をご参照ください。
6. 「『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領」の見直しについて
7. 「大学において履修すべき図書館に関する科目」について

## 講演・発表要旨

### 第1日 特別講演

講演① 14:00-15:30

竹内 愨

○ 講演題名

「21世紀の図書館協力」と「本のみち」—IFLA ソウル大会に因んで—

○ 講演要旨

2006年8月、ソウルでのIFLA大会のプレ・コンフェレンス、“Scholarly Information on East Asia in the 21<sup>st</sup> Century”において、’Early Book Paths as Preface to Library Cooperation’ という拙稿を発表するという機会を与えられた。その概要を報告する。

- ① 図書館協力は、異なる文化をつなぐ橋である。それを築くためには、IT技術の検討とともに、異文化間の敬意に基づく相互理解を根柢とする。
- ② そのためには、東アジアにおける「本の道」—生産・流通と他の地域への伝播、受容、活用—の比較研究によって、その共通点と相違点とを知ることが必要である。
- ③ 比較研究の前段階には地域研究がある。その一例として、日本文化の形成に大きく寄与した中国・朝鮮からの「本の道」を、江戸末期まで概観したい。

講演② 15:45-17:00

阪田 蓉子

○ 講演題名

本間一夫と日本点字図書館講演要旨

○ 講演要旨

日本点字図書館の創設者本間一夫氏の功績を「図書館」の視点から検証したいと考えています。

本間氏は視覚障害者の読書施設として日本点字図書館を開設しました。既に視覚障害者の自立のための施設、職業の場を広げるための施設として、日本ライトハウスが存在しており、点字図書の出版事業も手がけていました。この日本ライトハウスとは別に、視覚障害者のための「図書館」を建設したいという願望は、彼の中学時代の経験にもとづいています。本を読みたい、しかし、点字図書の数が限られており、しかも種類も職業訓練のための本が大半であったことから、読書施設設立の夢を抱いていたことに起因します。

第二に、本間氏が点字図書館創立に際して、蔵書を増やすために採用したのは、ボランティアの支援により、点字図書を作成するという方法でした。さらに注目すべき点は、ボランティア活動を開始するに際して、まず、ボランティアの養成から始めていることです。図書館サービスにおけるボランティア養成の先駆者として、本間一夫の採用した方法、アイディアについて、本間氏が書き残した文書を通して、再考したいと考えています。

第2日 個人発表

発表① 10:00-11:00

古波蔵 剛

○ 発表題名

琉米文化会館の二重構造

○ 発表要旨

第二次世界大戦におえる日本の敗戦により、沖縄は 27 年間に及ぶアメリカ軍隊の占領支配を受けた。それは何事においても軍事政策を優先する統治であり、沖縄住民はその専横さに喘いでいた。

そのような時代、米軍占領政府（米国民政府）は琉米文化会館（Ryukyu-American Cultural Center）という文化施設（図書館）を自ら運営し、沖縄住民へ開放、さまざまな文化サービスを提供していた。その主な活動が図書館運営であった。これは敗戦直後に日本各都市に設置された CIE 図書館と同様の施設である。しかし、CEI 図書館の活動が 5 年から 7 年程度であったに対し、琉米文化会館は 1951 年から 1972 年の沖縄の日本復帰まで存在、活動している点が大きく異なる。

この会館は当時の沖縄を 5 つのブロックにわけ、名護、石川（現うるま市）、那覇、宮古（平良市、現宮古島市）、八重山（石垣市）の五箇所に設立された。また名瀬市（現奄美市）には奄美琉米文化会館がおかれていた。つまり、一部の離島を除くほぼ全琉球をサービスエリアとしていた。

この会館ではアメリカ式の近代的図書館サービスが実践され、当初から開架式であった。

琉米文化会館を運営したいたのは占領米軍政府であったが、そこで働き直に沖縄人同胞へとサービスを提供したいたのは沖縄人スタッフらであった。設置者米軍政府と沖縄人スタッフらの、この会館によせる意識の「ズレ」を当時の米軍公文書と、筆者が行った元スタッフ数名に対するインタビュー記録（聞き書き）をもとに検証を試みる。

発表② 11:00-12:00

米井勝一郎（愛知県立大学学術情報センター）

○ 発表題名

青年図書館員聯盟の図書館革新運動と『ファシスト的公共性』: 楠田五郎太の「動く図書館」を中心に

○ 発表要旨

図書館文化史研究においては、敗戦前昭和期の図書館活動の評価については、二つの分裂した見解（戦争被害者か、加害・共犯的立場）が併存しているようである。

今回の発表は、個人の主体性や自主性が総力戦体制というシステムに動員されることを明らかにした近年の総力戦体制に関わる諸研究を参考にして、敗戦前昭和期における青年図書館員聯盟による図書館革新運動について、その有力なメンバーであった楠田五郎太の「動く図書館」を中心に、今後の分析の見通

しを得ることを目的に纏めてみたものである。

発表③ 13:00-14:00

岡野 裕行（相模女子大学非常勤）

○ 発表題名

スロベニア共和国「国立大学図書館」の建築について－ヨージェ・プレチュニクの遺したもの－

○ 発表要旨

中欧に位置するスロベニア共和国は、イタリア、オーストリア、ハンガリー、クロアチアに囲まれた人口約 200 万人の小国である。同国の国立図書館は「国立大学図書館」の名称で市民に親しまれており、国内最大規模の国立図書館であると同時に、首都リュブリャナに位置するリュブリャナ大学の附属図書館の機能を兼ね備えたものとなっている。同館の建築設計は、スロベニア国内を始めとして、ウィーン、プラハ、ベオグラードなどの中欧の周辺都市にも作品を遺したスロベニアを代表する建築家、ヨージェ・プレチュニック(1872-1957年)が手がけた数ある作品のうちの一つとして有名である。本発表では同図書館の建築構造を中心として取り上げ、その歴史や機能についても簡単に触れてみたい。

発表④ 14:00-15:00

藤野 寛之（聖トマス大学）

○ 発表題名

ブリティッシュ・ライブラリーの起源：国立中央図書館の役割とその意義

○ 発表要旨

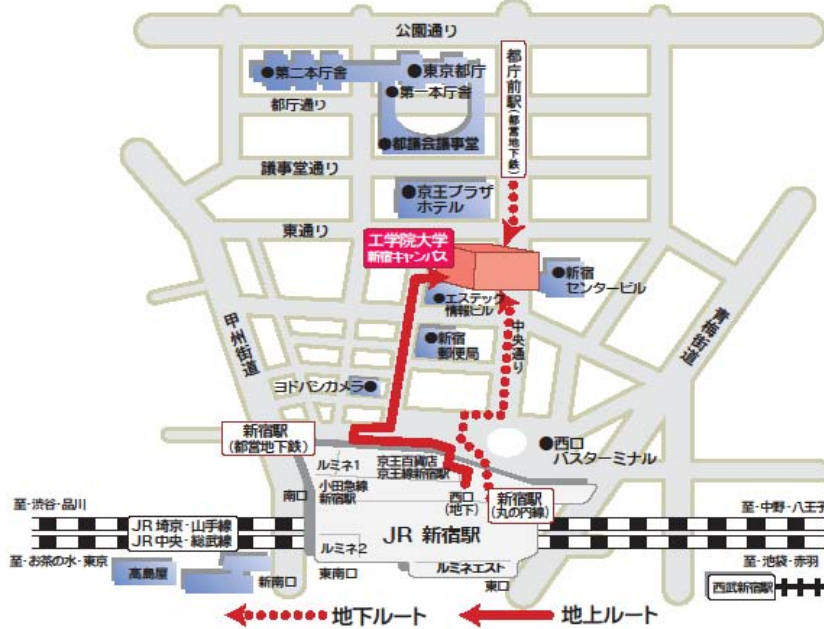
ブリティッシュ・ライブラリー(BL)の成立とともに、その貸出部門の一部として編入された国立中央図書館は、1916年に学生のための貸出図書館として出発していた。その後、1931年に国立中央図書館と名称を変え、イギリス全土の公共図書館のクリアリング・ハウスの役割を担うようになった。すなわち、資料の中央ストックを構築するとともに、地域図書館局に「総合目録」を編纂させる仕事に取り組んだのであった。この図書館は戦時期の爆撃によって、その機能を問われるまでとなり、1969年には国立図書館委員会の勧告によって、BLの一部局に編入された。前身機関から数えても60年に満たない歴史であった。

この図書館を単なる「消え去った」過去の図書館と見るか、あるいは、20世紀中葉に行われたイギリス図書館界の実験と見るかは、現代の図書館を考察するうえで重要な意味を持つ。国立中央図書館の活動は、国の中央貸出機構の実現という姿で、いまなおBLに引き継がれて生きているからである。イギリスは図書館間の協力という課題を中央貸出館の設置という形で実行に移したわけであり、その意義はきわめて大きい。本研究は、この国立中央図書館の活動をイギリスの「図書館協力体制」の実現という視点から検討することを意図するものである。

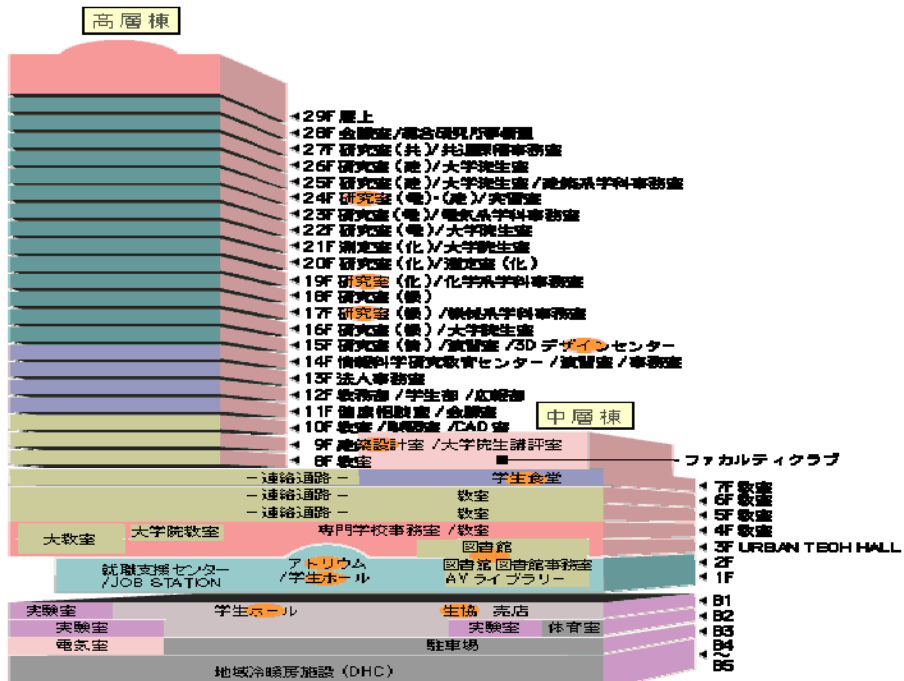
## 工学院大学新宿キャンパス案内図

TEL.03-3342-1211(代)

URL <http://www.kogakuin.ac.jp/>



JR(山手線・中央線・埼京線)、京王線、小田急線  
 地下鉄(丸の内線・都営新宿線)「新宿駅」下車西口より徒歩5分  
 大江戸線 都庁前駅 直結



日本図書館文化史研究会  
2007年度活動報告(2007.4—2008.3)

1. 創立25周年記念事業の実施

研究会創立25周年を記念して、下記の事業を実施した。なお実施にあたっては、会員から25周年記念事業寄附を募った。

- 小川徹氏、河井弘志氏の名誉会員推戴
- 2007年度研究集会を創立25周年記念研究集会として実施
- 『図書館人物伝』(日外アソシエーツ 2007.9)の編集・発行

2. 創立25周年記念第24回研究集会・総会の開催

(参照:『ニューズレター』第101号)

期 日 2007年9月15・16日

会 場 同志社大学

- 第1日目は、同志社大学図書館見学会、会員総会、特別講演2件を実施した。第2日は個人発表4件と運営委員会を実施した。
- 総会では、2006年度活動報告、2006年度決算報告、2007年度予算、創立25周年記念事業等が審議された。

3. 機関誌『図書館文化史研究』第24号の刊行(2007年9月)

06年度シンポジウムの記録、論文2篇、研究ノート3篇を掲載・刊行した。

4. 会報『ニューズレター』の編集刊行

第100号を2007年5月、第101号を同7月、第102号を同11月、第103号を2008年1月に刊行した。

5. 研究例会

(1)第1回例会(期日:2007年6月2日、会場:明治大学)

2件の発表を実施した。(参照:『ニューズレター』第100号)

(2)第2回例会(期日:2007年12月8日、会場:明治大学)

2件の発表を実施した。(参照:『ニューズレター』第102号)

(3)第3回例会(期日:2008年3月1日、会場:山口県立山口図書館)

西日本図書館学会との共催で、特別講演1件、発表4件、山口図書館等の見学会を実施した。(参照:『ニューズレター』第103号)

6. 運営委員会の開催

2007年6月2日(明治大学)、9月16日(同志社大学)、12月8日(明治大学)、2008年3月15日(明治大学)の4回実施した。

7. 会員動向

2008年3月末日現在:189名(うち名誉会員5名)

新入会:18名 退会:9名



日本図書館文化史研究会  
2007会計年度決算報告(2007.4-2008.3)

収入		1,352,177	
		518	備考
郵便局貯金受取利子		405	
	4月1日	113	
	10月1日	405	
会費		542,380	
	06年度分	3,000	1名
	07年度分	534,000	178名(ほか前年度納入済4名、名誉会員5名、未納11名)
	07年度分	3,100	100円過納*1名
	07年度分	2,900	前年度100円過納*1名
	07年度分	2,400	前年度600円過納*1名
	08年度分	12,000	4名
	同振込手数料	-15,020	60円63件、100円94件、80円8件、120円10件(ほか自己負担等4件)
2006年度繰越金		693,339	
25周年記念事業決算からの繰り入れ		116,053	
支出		1,103,057	
		金額	備考
『図書館文化史研究』24号製作・発行費		348,625	
	日外支払い	327,625	
	抜刷製作費	21,000	
『ニューズレター』100号製作・発行費		30,035	
	印刷費	14,700	
	振込手数料	105	
	送料(1)	15,040	188通*80円
	送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』101号製作・発行費		32,272	
	印刷費	16,537	
	振込手数料	105	
	送料(1)	15,440	193通*80円
	送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』102号製作・発行費		31,965	
	印刷費	15,750	
	振込手数料	105	
	送料(1)	15,920	199通*80円
	送料(2)	190	海外会員分
『ニューズレター』103号製作・発行費		30,435	
	印刷費	14,700	
	振込手数料	105	
	送料(1)	15,520	194通*80円
	送料(2)	110	海外会員分
25周年記念事業費		600,000	
事務局経費		29,725	
	通信費	10,020	
	事務用品等購入	19,705	
2008年度への繰越金		249,120	

監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

監事 山本 順一 印  
監事 山口源治郎 印

## 日本図書館文化史研究会 創立 25 周年事業決算

収入		1,195,732	
	金額	備考	
25 周年記念事業寄附	583,830		
研究会一般会計から	600,000		
研究集会剰余金	11,902		
支出		679,679	
	金額	備考	
『図書館人物伝』製作費	679,679		
剰余金		516,053	

※ 剰余金のうち、40 万円を特別会計に、  
残金を研究会の一般会計に繰り入れる

## 創立 25 周年記念事業 寄附金決算

収入		589,080	
	金額	備考	
25 周年記念事業寄附	579,080		
研究会口座への寄附	10,000		
支出		5,250	
	金額	備考	
払込用紙製作費	5,250		
25 周年事業寄附金	583,830	25 周年事業決算へ	

## 日本図書館文化史研究会 2008 年度予算(案)

---

**収入** **799,149**

---

	金額	備考
郵便局貯金利子	29	
会費	550,000	
2008 年度分	570,000	190 名*3,000 円
同振込手数料	-20,000	120 名*120 円+70 名*80 円
2007 年度繰越金	249,120	

---

**支出** **559,310**

---

	金額	備考
『図書館文化史研究』25 号発行費	360,000	
『ニューズレター』発行費	129,310	
104 号	31,310	(発行済)
105 号	34,000	
106 号	32,000	
107 号	32,000	
研究集会運営費	40,000	
研究例会運営費	5,000	
第 1 回例会	0	
第 2 回例会	0	
第 3 回例会	5,000	
事務局経費	25,000	
通信費	10,000	
事務用品等購入	15,000	
2008 年度への繰越金	239,839	

---

**特別会計(1)** **100,000**

**特別会計(2)** **400,000**

## 日本図書館文化史研究会規約（案）

○ 下線部分が、今回改正部分です。

### 第1章 総 則

第1条 本会は、日本図書館文化史研究会（Japan Association of Library and Information History）と称する。

第2条 本会の事務所を東京都千代田区神田駿河台1丁目1番明治大学司書・司書課程におく。

### 第2章 目的および事業

第3条 本会は、図書館文化史とそれに関連する諸部門に関する研究およびその研究者相互の協力を促進するとともに、外国の関係学会との連絡を図ることを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 研究者の連絡および協力促進
- 2 研究会および講演会の開催
- 3 機関誌、その他図書等の刊行
- 4 「ニューズレター」の定期的発行
- 5 外国の関係学会との連絡および協力
- 6 前各号のほか、運営委員会において適当と認めた事業

### 第3章 会 員

第5条 本会の会員となることができる者は、次の各号に定める資格を有する者で、運営委員会の承認を得た者とする。

- 1 大学等の教育研究機関において図書館文化史に関連する分野を専攻する者またはこの分野に関心をもつ研究者
- 2 図書館実務に携わり、図書館文化史に関連する分野に深い関心を抱く者
- 3 前2号のほか、図書館文化史に関心をもつ市民で、運営委員会が会員としてふさわしいと認めた者

第6条 会員となろうとする者は、本会事務所あてその意思を証する書面を提出しなければならない。

第7条 本会に、名誉会員をおくことができる。名誉会員は、運営委員会の推薦にもとづき、総会において決定する。

第8条 会員は、名誉会員を除き、総会の定めるところにより、会費を納めなければならない。

- 2 会費は年3,000円とする。

第8条の2 本研究会の目的および事業に賛同する組織、団体は、賛助会員となることができる。賛助会員は、運営委員会が推薦し、総会の承認を得るものとする。

2 賛助会員の会費は、年会費として一口 3,000 円とする。

3 賛助会員は代表者を指定し、代表者は、本研究会の運営につき、5 条に定める会員と同等の権利を行使できる。

第 9 条 会員（賛助会員を含む）は、本会の機関誌、ニューズレターの無料配布を受ける。

第 10 条 会員は、次の場合には、退会したものとする。

1 本人が退会を届け出たとき

2 会費を連続 2 年間滞納し、会員にとどまる意思が明確でないと運営委員会が判断したとき

3 本条は、賛助会員に準用する。

#### 第 4 章 機 関

第 11 条 本会に次の役員をおく。

1 代 表 1 名

2 運営委員 15 名以内

3 監 事 2 名

4 事務局長 1 名

5 編集委員 若干名

第 12 条 運営委員および監事は、総会において選任する。

2 代表は、運営委員会において選任し、総会の承認を得る。

3 事務局長および編集委員は、運営委員会において互選する。

第 13 条 前条の役員の任期は、原則として、総会により選任、承認された翌年の 4 月 1 日から満 3 年とする。

2 補欠の役員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

3 役員は、再任されることができる。

第 14 条 代表は、本会を代表する。

2 代表が故障のある場合には、代表の意向を尊重し、運営委員会において代表代行を選任する。

第 15 条 運営委員は、運営委員会を構成し、会務を執行する。

2 運営委員会は、事務局長に日常的会務の執行を委任するものとする。

3 事務局長は、円滑な会務遂行のために、事務局次長 1 名を委嘱することができる。

第 16 条 監事は、会計および会務執行の状況を監査する。

2 会計年度は、4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日とする。

第 17 条 運営委員会は、毎年 1 回、通常総会を招集しなければならない。

2 運営委員会は、必要があると認めるときは、いつでも臨時総会を招集することができる。

3 会員総数の 5 分の 1 以上の会員が、会議の目的を明示して請求したときは、運営委員会は臨時総会を招集しなければならない。

#### 第 5 章 規約の変更および解散

第 18 条 本規約の変更には、総会の議決を必要とする。

第 19 条 本会の解散は、運営委員会または総会員の 5 分の 1 以上の提案にもとづき、総会出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を得なければ、これを行うことができない。

付 則

- 1 本規約は、1995 年 9 月 10 日より施行する。
- 2 1995 年度総会るとき、図書館史研究会の会員である者は、本規約の発効とともに、日本図書館文化史研究会の会員となる。
- 3 1995 年度総会において、選任、承認された役員の任期は、1995 年 9 月 10 日から 1998 年 3 月 31 日までとする。

付 則 (2003 年 9 月 21 日)

- 1 本規約は、2003 年 9 月 21 日より施行する。

付 則 (2006 年 9 月 10 日)

- 1 本規約は、2006 年 9 月 10 日より施行する。

付 則 (2008 年 9 月 14 日)

- 1 本規約は、2008 年 9 月 14 日より施行する。

### 『図書館文化史研究』25 号発行のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第 25 号が、まもなく刊行されます(本文 128 ページ、予価 2,600 円程度)。目次は以下のとおりです。

[特別講演]

日本古代の図書館を考える：奈良時代寺院における経典保存利用をめぐって

小川 徹

図書館文化史と図書文化史

岩猿 敏生

図書館の歴史と現在

河井 弘志

[研究ノート]

ウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクールの歴史 1904-52 年

松崎 博子

[書評]

『ケンブリッジ・イギリス・アイルランド図書館史』

藤野 寛之

『日本図書館史概説』

石山 洋

[資料紹介]

金森徳次郎著作目録(戦前編) 1910-1945

霜村 光寿

日本図書館文化史研究会

2008 年度第 3 回研究例会のご案内

2008 年度第 3 回研究例会を、函館市中央図書館のご協力をいただき、おおむね下記のように実施することになりました。例会内容などの詳細につきましては、決定次第『ニューズレター』や研究会のウェブサイトでご案内申し上げます。

つきましては、第 3 回例会での発表者を募集します。北海道在住の方、もしくは北海道の図書館の歴史に関する発表を優先して受け付けます。奮ってご応募ください。

- 開催日程： 2009 年 3 月 20 日（金・祝）・21 日（土）
- 開催場所： 函館市中央図書館（北海道函館市五稜郭町 26 番 1 号）  
<http://www.lib-hkd.jp/>
- オプションルツアー： 市立函館図書館（旧本館）見学会

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度 3 回（6 月頃、12 月頃、3 月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、事務局までお申し込みください。

なお、2008 年度の第 2 回例会は関東地区での開催を予定しています。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200 字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め 1 件 1 時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。

今後ニューズレターでは、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報して行きたいと思っております。会員・非会員を問わず、関連業績などを事務局までご連絡ください。皆さまのご協力をお願いします。

日本図書館文化史研究会  
2008 年度第 1 回研究例会報告

7 月 12 日、2008 年度第 1 回例会が、明治大学司書・司書教諭課程室を会場に開催されました。参加者は 12 名でした。

なお、研究例会の発表レジュメをご希望の方は、事務局までお申し出ください。『ニューズレター』次号に同封してお届けします。

【発表 1】

○ 報告者

高橋 和子（相模女子大学名誉教授）

○ 報告題名

『図書館人物伝』「日本人編」を読む

○ 報告要旨

はじめに「図書館の発達に尽くした人物の本格的な評伝集」と銘打った本書について、評価する観点から若干の私見を述べたのち、日本人編の中から佐野友三郎、森清、大西伍一、志智嘉九郎、島尾敏雄の評伝について報告した。

先人達が図書館界に残した功績と生涯を、評伝者が個々の立場で書き、論考した人物伝は力作揃いの人物研究書であり、主題分野の資料として評価したい。

【発表 2】

○ 報告者

泉山 靖人（東北大学）

○ 報告題名

『図書館人物伝』「外国人篇」を読む

○ 報告要旨

本報告では、『図書館人物伝 図書館を育てた 20 人の功績と生涯』外国人篇で取り上げられた 10 名の記述について、各人ごとの年表として再整理するとともに、共通して取り上げられた人物を通じた関係図を作成し、報告した。

構想段階では外国人篇を俯瞰した「地図」としてまとめる予定であったが、報告者の力量不足により発表までに準備が整わず中途半端な報告となってしまったことをお詫びするとともに、今後何らかの形で完成させることで今回の報告の任を果たしたいと考えている。



## 運営委員会通信

### ■■ 次回運営委員会について ■■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

### 記

- 日 時 9月15日(月・祝) 15時～17時
- 場 所 工学院大学・新宿キャンパス 28階第1会議室
- 内 容
  1. 2008年度第2回研究例会について
  2. 2008年度第3回例会について
  3. 2008年度研究集会・総会について
  4. 日本図書館文化史研究会規約の改正について
  5. 『『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領』の見直し等について

ほか

### ■■ 前回運営委員会の報告 ■■

実施日：2008年7月12日

場所：明治大学

以下のような事項について、協議しました。

1. 2007年度決算について
2. 25周年記念事業決算と剰余金の使途について
3. 2007年度事業計画・予算案について
4. 2008年度研究集会について
5. 「日本図書館文化史研究会規約」の改正について
6. 『『図書館文化史研究』第25号について
7. 『『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領』の見直し等について
8. 2008年度第1回研究例会について
9. 2008年度第3回研究例会について
10. 司書養成の省令科目について
11. 会員動向

ほか

## 事務局だより

### ■■ 会費納入のお願い ■■

2008年度会費をまだ納入されていない方は、至急ご送金ください。振替用紙は前号に同封しましたが、見当たらない方は事務局までご請求ください。

### ■■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、早めに事務局までご連絡ください。

### ■■ 会員動向 ■■

#### 新入会

おかの ひろゆき  
岡野 裕行 (相模女子大学非常勤)  
研究分野： 図書館情報学／文学館学／日本近現代文学

#### 所属変更

千代 正明 (立教大学)  
山本 順一 (桃山学院大学)

#### 退会

高橋 佑季  
槇得 幸彦  
滝野 晶子  
平井 尊士

### 『図書館文化史研究』第26号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第26号の原稿を募集中です。  
原稿の締切は2008年12月末日です。ふるってご投稿ください。  
なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。